

レバノン

観光ガイド



観光省



地中海



トリポリ

ビブロス

バイルート

バイルート国際空港

ハールベック

アンジャル

至ダマスカス

サイダ

スール

シリア

パレスチン

変化に富んだ国、レバノン

レバノンは西に地中海、東にひとつに並んだ山脈に囲まれ、海と山の中間に位置している。面積はわずかに1万4522平方キロメートルであるが、その多様な地理、風景、文化、歴史に富んだ国である。この国を訪れる人々は、「白い絶壁が見える青い海と緑豊かな山々」、「また乾燥無味な丘陵と水々しい樹木」と数々の対照的なものを発見することができる。秃山の後には川や滝などの水に溢れた渓谷が続き、松の木で覆われた丘陵からドラマティックな岩川風景や農場やぶどう園のある広大な平原へと突然変わる。

レバノンは約一万年の歴史の中から多種多様のオリジンを持つに至った国である。その自然美や恵まれた地形は様々な征服者や占領者を魅了し続け、結果として彼等の文化の軌道を残してきた。それらの拭い去ることのできない足跡が、現在のレバノンの構成をしてきたのである。

過去の遺跡は、国中に溢れる遺跡の多様性からも見ることができ、フェニキア時代の石棺、ローマ時代の神殿、十字軍の要塞、マムルーク時代のモスクなど、どこへ行ってもこの国の豊富で苦悩に満ちた歴史が明らかにする。

レバノンの料理はその文化と同じように驚くほど多様である。数え切れないくらいに次から次へとテーブルに並べられる風味の良い前菜の「メッサ」は良く知られている。しかし、どんな言葉を使ってレバノンを語ろうとしても、それはとても無駄なことで、実際にレバノンを経験するしか方法がない。だからこそ、町から村へ、遺跡から都市へ、ある時代からある時代へと続くこの不思議な国への訪問をお勧めしたい。

ベイрут

—BEIRUT—

東洋のバリ



これまで何度も破壊、再建されてきたベイрутは、東洋と西洋が見事に混ざり合い、色々な顔を持つ町である。角を曲がる度に、ダイナミックな景色や喧騒した町並み、お洒落な通りや虚栄的な部分など様々な面を見ることが出来る。

ベイрутには対照的なものが圧倒的に多いため、常に訪問客を無関心にさせておかない。エレガントな同僚品のブランドを売るエアコンの効いた高級店があるかと思えば、そこから数メートル離れた場所では、暑い太陽の下で手押し車を引いている商人など、実に絵になる風景が溢れている。新しく再塗装された古い別荘とモダンなガラス建材を使った建物は過去と現実の混成曲を映すようである。

そのような対照的な場所は、内戦がもたらした最後の証の地や破壊後に放棄された残骸隣接地にもっとも多く見られる。しかし、そのすぐ近くにはやはりレストランや喫茶店などの活気溢れる店が並ぶ歩道があるのである。

ベイрутと言えば、莫大な再建プロジェクト進行中のダウンタウンが典型的である。復旧された建物の数々は、まるで綺麗なバスアルカラーで描かれた「アラビアン下夜一夜物語」に登場してくる町並みを思わせ、幾何学模様の様

に狭い歩道は、夜はスベクタクルと化し、市やお祭りなどで活気になる。それらは繊細に彫刻を施された石造見物を背景に行われるのである。通りを抜けていくと、都市計画に則った風景に完全に調和されたローマ風呂に行き着く。この一角には1849年にオットーマンによって建築された大宮殿、グラン・セレイニが際立っている。

また有名なラウシェの海岸沿いの通りは、誰もが心を誘われる場所である。この2キロメートルの海沿いの遊歩道は、ジョギングする人、散歩する人、食べ物を売る商人などで溢れかえる。恋人同士はすぐ目の前にあるランドマークのひとつ、鳩岩「ビジョン・ロック」を見ながら手に手を取って地中海に沈む夕日を楽しんでいる。ベイрутは、国の商業を取り扱う主な港を持つ多忙で雑踏とした首都である。しかし、仕事が終われば、レストランやナイトクラブで楽しむために、またこのコスモポリタンへ出掛けるのである。

首都であり、文化の中心でもあるベイрутには、大学や学校が多くあることで知られている。国立博物館ではレバノンの偉大な考古学的過去の記録を見ることができ、音楽や美術や劇などの催し物は一年中どこかで開催されている。

国立博物館

MUSEUM

歴史の宝庫

国立博物館は重要な無類の考古学遺物収集本拠地で1942年に開館されたが、その後大規模に修復作業が行われ、近年再開された。現在、博物館一階には約七十の大きな遺物が展示されている。



エジプトの神々を祀る神殿の壁面彫刻



収集品の中でも、番人気は最初期のフニキアのアルファベットが刻まれているヒプロス王アヒラムの石棺である。この階には同じくヒプロスで見られたエジプト様式の巨像がある。

また病氣治療の神であるエシモン神に伝える奉納物として使われた子供の像は、シドン近くのエシモン神殿で発見されたものである。そのほか顕著な遺物として、牛頭の柱頭、また神話からの場面が描かれている数々のモザイクなどがある。

二階には有史以前、青銅器および鉄器時代、ヘレニズム、ローマ、ビザンチン時代、またはアラブ征服時代からマムルーク時代までの約千種類もの小遺物が保管されている。

ジェイタ洞窟

JEITA

創造を超えて

何百万年もの浸食作用により削り出されたジェイタ洞窟は、到底筆舌に尽くしきれないスペクタクルなものである。エレガントでありまた妖艶な姿を醸し出す自然彫刻達は、巧妙に工夫された照明設備により、さらに神秘的で思慮深く見える。

ジェイタ洞窟は1836年に発見され、1874年から1940年までの間に英国、



その後、アメリカ及びフランスの探検隊により、1750メートルの奥行きまで踏破された。その後、1940年からはレバノンの洞窟学者たちがこの巨大な地、トシステムの調査を続け、現在までに少なくとも9キロメートルの長さまでが知られるようになった。ジェイタ洞窟は湿りけのない上層部と船に乗って進む地底湖の下層部からなっている。洞窟訪問は、そのほとんどが超自然的で神秘的な雰囲気を与える感動的な体験である。鍾乳石と石筍は接続してフアンタステイックな景観を創り、その岩の現像が地下洞窟の澄んだ水に映し出される。

訪問者の為に小さい電車が上層部と下層部を行き来しており、また洞窟は非常によく管理されているため、子供や高齢者でも安心して歩くことができる。またレストランやスナックバー、映写室もある



ビブロス

—BYBLOS—

文明の十字路



ビブロスはレバノン訪問客が必ず訪れなければならない場所のひとつである。7千年もの歴史を持つこの町は、何千年にも渡ってビブロスを占領してきた全ての文明の足跡を次から次に辿ることができ、感銘深い遺跡の本拠地である。

海に面しているこの遺跡には、いくつかの住居跡や古代の街壁、その他いくつかのローマ時代の遺跡がある。これら全てはローマ時代の劇場に向かい合っているおり、それはローマ時代の列柱の足下に散在するフェニキアの石棺と境をなしている。

示している蝶博物館がある。この古い町ビブロスで他に興味がある所として、岩の中に保存された魅惑的な有史以前の植物や動物が見られる化石博物館がある。ビブロスはアルファベット誕生の地として世に広く知られている。

実際、この地で発見され、現在国立博物館にて展示されているフェニキア王アヒラムの石棺は、フェニキア線文字アルファベットの知られる限り最古の銘石である。

またビブロスは穏やかな波に揺れる小漁船のとどまる美しい港としても知られている。

十三世紀に十字軍に立てられた聖ジョン教会では、精彩に彫刻を施された装飾頭冠鐘楼と美しい三重アーチの洗礼場が人目を引く。

要塞入り口の近くには、オットマン時代の小さくて綺麗なモスクがある。またその近くには、レバノンの慣習、伝統的な場面を展示している航海博物館がある。この古い町ビブロスで他に興味がある所として、岩の中に保存された魅惑的な有史以前の植物や動物をみることのできる化石博物館がある。

またその近くには、レバノンの慣習、伝統的な場面を展示している航海博物館がある。この古い町ビブロスで他に興味がある所として、岩の中に保存された魅惑的な有史以前の植物や動物をみることのできる化石博物館がある。

トリポリ

—TRIPOLI—

東洋の香氣

レバノンの北部にある。昔日に大きい町トリポリは、いつも活気のある町であり、他のどんな古い町よりも美しくレバノンの過去の伝統が残っており、古いトリポリの東洋的な雰囲気は、モスクのムニジン、祈禱僧の祈りの声が町中響き渡る時間に感じられる。これらのモスクのほとんどは十三世紀にこの町を占領した

マムルークの時代に創立されたものである。

トリポリには十字軍時代のトリポリ創業者、レイモンド・ドクセン・ギレイユによってもともと建てられた壮麗な城が建っている。

マムルークに大部分を破壊されてからの何世紀間にもその後の支配者達により、再建され続けてきた。その長さ140メートル幅七十メートルの壮大な城壁は中央の最も印象的な建物のひとつである。十三世紀の頃からあるハマム、公共風呂も名高い。そのガラス開口円屋根は内部を明るくする。唯一機能しているエル・アベド・ハマムでは、今でも本来のトルコ風呂を満悦することができる。古い街区では他にいくつかマムルークやオットーマン時代のハン（隊商の旅舎）やマドフラサ（コーラン学校）がある。



アンジンヤル

—ANJAR—

ウマイヤの町

ベツカ溪谷に位置するアンジンヤルには、レバノンで数少ないウマイヤ時代の遺跡がある。イスラム最初の世襲王朝、ウマイヤは7、8世紀にこの地区を支配していた。他の遺跡に比べるとアンジンヤルは短期間しか繁

栄しなかったが、その地理的位置のおかげで、重要な商業センターとしても栄えた場所であった。その後、

8世紀の初めにカリフのワリドイブン・アブデル・マリクの統治時代に、休息、娯楽の場となった。

7メートルの高い壁に囲まれたアンジンヤルは、十平方メートル以上に広がっている。町は東西に走る通りと北東に走る通りにより、完全に均等に区画されている。

ひとつの道路が交差する町の中心には、台座に支えられた4本の堂々とした石柱がある。

宮殿の向かいには、モスクのミフラブがメッカに面して建っており、礼拝者が洗礼するために備えられた井戸を見ることが出来る。アンジンヤルはユネスコ世界遺産に登録されている。



カデイーシャ溪谷

—QADISHA—

聖なる溪谷

カデイーシャの聖なる溪谷は、今世紀の初めキリスト教隠者や司教の避難地となった場所、美しいブシャーレ村の麓にあり、レバノン杉の場所からも近い。ユネスコの世界遺産に登録されているこの深い溪谷は、まるで太古の極楽の地を思わせる。上部は崖になっており、木の根はその石灰岩を突き抜けている。



。断崖の岩には、洞窟や水で浸食形成された穴があり、断崖を廻り切り開いて造られた修道院はこのおのずと自然美の一部と化している。水はどこにでもあり、滝となって流れ落ちたり、道路脇に泉となって湧き上がっている。

カデイーシャの静穏、野花や芳香な植物の香りは、今日に至っても聖なる溪谷と呼ばれるに値し、変わらず平和な大國を形成し続けている。ここには人里離れてほとんど人を寄せ付けない隠者の庵や洞窟、追われてきた各種の宗教共同体によって使用されていた洞窟内修道院を見ることができ

る。
コズハヤの修道院には1872年に建立された印刷所がある。ここは十六世紀に輸入されたレバノン最初の印刷所の跡である。

レバノン杉

—CEDARS—

永遠のシンボル

標高1800メートル以上にあるレバノン杉の荘厳な姿から過去の偉大なる年月を偲ばせ、人々を魅了させる。気温や湿度、腐食にも強く耐久性のある木材として知られるこの杉々は古代から広く利用されてきた。

フェニキア時代には主にエジプトや地中海沿岸の植民地に大量に輸出された。ソロモン王はエルサレムの殿を建てるために、ティール神やヒラム王に増大な量

の杉材を使用し、またエジプト人は、杉材を船舶建造や棺に使用し、杉の油はミイラ化するのに用いた。

杉材の集約的な伐採はその数が非常に少なくなるまで何世紀も続いた。かつてレバノンの山々を覆っていた広大な杉の森は、保護林としてジャジ、タスリン、エフデン、パルクとマツセル・エル・シユーフなどにわずかに点在しているのみとなった。

最も有名な杉は、樹齢何百年というものが多く点在するブシャーレの杉だ。そのうちの4本は樹齢1500年から2000年と推定されており、高さ二十五メートル、幹周十二メートルから十四メートルもある。



木の枝が礼拝者の腕のように伸びている木の杉と呼ばれる「シダーズ・オブ・ザ・ロード」に真綿のように積もった雪がとても印象的である。



バールベック

—BAALBECK—

神々の町



バールベックはレバノンの東の山脈に囲まれたベツカー高原にあり、世界で最も重要な遺跡のひとつである。

非常に古い遺跡であるバールベックは、アレキサンダー大王侵略の後に太陽の町ヘリオポリスとして栄光に輝くようになり、ローマの征服後、主な神殿が造られ、町は宗教上の重要な遺跡となった。この重々しい聖域は、主な3つの神殿からなっている。バールベックの見学は、保存こそ十分ではないが、一番大きなジュピター神殿から始めよう。これは、キリスト教時代初期のアウグストゥス皇帝の統治期に建立され、それから半世紀後のネロ帝の支配下時に完成された。長さ八十八メートル、幅

四十八メートルのこの神殿は、もともと五十四本の列柱に支えられていた。今日では6本の柱で高さ二十一メートル、直径二メートルしか残っていないが、その残像が過去の繁栄と対比して感慨深い。

バールベックの傑作品は、疑いなくバッカス神殿である。その周りに築かれたアラブ時代の要塞のお陰で素晴らしく保存がよく、何世紀もの間、侵略や自然崩壊から守られてきた。一世紀頃のジュピター神殿に続いて建てられ、神殿の入り口には堂々とした階段に続き、ニンプと神話上の神々で精彩に装飾してある巨大な扉がある。

少し離れたところに3世紀に建てられたヴィーナス神殿がある。ローマ建築の本物の宝石と言えるこの神殿は、ほかでは珍しく円形をしている。

バールベックでは、以前同じところに建てられていたビザンチン教会の建材を使って建てられた8世紀のウマイヤ・モスクを見ることもができる。現在バールベックはユネスコ世界遺産に登録されている。

また、ローマ神殿愛好者にはベツカー高原にあるマジョデル・アングヤルやニハ、デクウニスなどの神殿もまた興味深いだろう。



—SIDON—

栄光ある歴史



紀元前十四世紀の有名なアマルナ文章に言及してある古代の町シドンは、その6千年もの歴史を通して多くの激変を経ってきたことで知られている。

他のフェニキアの町のように、シドンもアラブに征服される前に、ペルシャ、ギリシャ、ローマの支配下に屈服し、その後は十字軍やマムルークの時代が続いた。

強風や悪天候にも負けず、誇り高く海上に立っているこの城は、サグッテの領土となった十字軍時代に建立されたものである。

城の見学の後は、近くの海の見える美しい庭園を持つ政府のレストハウスに立ち寄ることをお勧めしたい。コーヒーを飲むにしても食事をするにもいい場所である。

式の際に用いられていた幼児の形をした彫刻がここで見え、シドンには、マムルークやオットーマン時代の遺跡が数多く残されているが、その中でもグラント・モスクとハンエルフランジが名高い。この印象的なハン、いわゆる隊商旅舎であるが、十七世紀にこの町を通るキャラバンや異国商人に宿を提供するために建てられたものである。現在は修復中。

グラント・モスクは、外側から見ると要塞を思わせる荘厳な建築であることに触れておきたい。実はこの建物の壁が高いのは、十字軍時代に聖ジョンの修道院によって建てられ、その後マムルークによってモスクに変えられたという。

シドンの中世の市場の周りは訪れて欲しい場所のひとつである。ここは興味深い古い店などの他に、古いモスク、コーラン学校（マドラサ）、公共風呂などがある。

シドンの郊外でペイルートからの街道付近に治療の神、エシュモンに捧げられた有名なフェニキア神殿がある。この神殿には、病人の洗浄に使われていたと言われている。治療儀現在その彫刻は国立博物館にある。この興味深い遺跡には、ローマやビザンチン時代の遺物も残っている。



ティール

TYRE

海の女王

聖書にも時々言及されるティールは、おそらく紀元前3千年頃に創立されたといわれ、海岸沿いの街といくつかの小さい島々から成っていた。古代、町はガラスや紫染料、杉材などの貿易で地中海を定期的に行き来する商船達が富と栄光を運んで来てきた。

ティールが最も栄光に輝いていたのは、紀元前十世紀頃である。伝説によると、ヨロバ王女が今のヨロバベゼウスに誘拐されていたのが機嫌であり、大抵はこの王女の名前を取ってヨロバとを付けられ、彼女の後を追った兄弟の一人、カドモスはギリシヤ人にアルファベットを伝えたとされている。

ティールの栄光はその境界を越えて、地中海の沿岸線に築かれていった多くの植民地にまで広まっていた。

しかし、そのうちに世界の偉大な征服者から睨まれるようになった。その中の一人として、町を十三年間攻囲したバビロンのネブカドネザル王がいる。そして紀元前332年にアレキサンダー大王によって征服された。

彼は7ヶ月間ティールを包囲した後、町を焼き払い、島と陸を結ぶ手遣を造って目的を達成したのである。時代を経て、その上半

道には徐々に砂が満ちて、町は半島になった。

今日のティールには、昔の栄光の後が数多く見られる。元々は島だったローマの町の道路はモザイクで舗装され、柱廊で縁取られた街道は直接海に突き進んでいくかのように思われる少し離れたところに十字架によって建てられた大聖堂跡がある。これらの素晴らしい遺跡の風景はローマ時代の競馬場凱旋アーチの入り口へと続く500メートルにも及ぶ広大なローマ街道沿いにて見ることができる。

評価できないほどに貴重な遺跡であるということや、1984年、ユネスコはティールを世界遺産に登録した。

ティール訪問者には是非、宿舎やレストラン、その他の設備を提供している政府のレストハウスにも立ち寄ってもらいたい。カナ・ティールの数十メートル南東にあるカナは、聖書にあるカナでの結婚が行われたところで、キリスト教徒に長い間、聖なる場所として尊崇されてきた。

ここでは岩に刻まれた十二人の浮き彫りを見ることができるが、それはキリストと十二人の使徒と言われている。

Beit Eddine

—BEIT EDDINE—
大統領の宮殿



魅惑的な村ティール・エル・カマルからほんの敷き口離れたところに十九世紀のレバノン建築の傑作、 Beit Eddine の王宮がある。広大な中庭、美しい噴水、茶褐色の石で出来た幾何学的なアーケードなど、一つひとつに細かい細工が施された素晴らしい王宮で、エミール・

ベチール一世の治世の時、十三年間にわたって建てられたものである。今ではレバノンで最も人気のある観光名所のひとつとなっている。

象ガンを施された大理石の荘厳なドア、典型的なマダルーニ式の込み入った木工細工で閉じるバルコニー、各種の色を豊富に使った窓など、この時代の典型的といわれるデザインを見ることが出来る。

最近 Beit Eddine は大統領の夏の邸宅として復旧されたが、観光客の訪問に支障はない。反対に観光客にとってはレバノンの大統領に会って話をする絶好のチャンスになるかもしれない。この王宮は、国際的に知られた演奏者などに向かえ、毎年行われる文化祭の場としても使用されている。



現在、中東の主な文化センターのひとつであるレバノンには、戦前に行われていた伝統行事や夏の祭りが再び開催されている。

Fiestas de Tyber et Festival

夏の間、毎日レバノンでは一連の国際的なアーティストの演奏、演技などを鑑賞することができる。それらはバルベックの遺跡跡やビプロスの十字軍の要塞、 Beit Eddine の王宮やティールの競馬場、ハン・エル・フランジェなどで行われている。

7月初めから8月末まで音楽コンサートやバレエ、オペラや近代ダンスなどが行われ、古代の遺跡が息を吹き返す瞬間でもある。

美しく証明を当てられ、著名な俳優達の声に高められた遺跡達の魔法を鑑賞できるのは、忘れられない経験となるはずである。

Fiestas de Tyber のプログラムや日程などに関することはレバノンの観光省の情報局にお問い合わせください。

電話：(01) 343073

名所を離れて

レバノンには遺跡の美しさで知られているが、山地や絵画のような村々を見逃す手はない。赤い瓦屋根、川に這いつくばっているように見える石造りの家、これらの村々が見事に混ざり合っている。レバノンのひとつの顔を作っているのである。たまには名所ばかりの観光地を離れて、



シヤバブ、伝統的な家が並ぶラチャヤ、雪で覆われたサンニに隣にあるハスキクタなどの典型的な村を巡るもの面白いだろう。

その他、滝で有名なシュツジン、美しい自然美のあるドウマ、またティール・ユル・カマルやエミール家の王宮なども素晴らしい。ブシャールはその高く崇拝されている詩人、キプラン・ハリル・キプランと彼の作品「予言者」で知られている。

海岸の近くでは、木材やフレスコを使って豊富に裝飾された美しい18世紀初期の別荘のあるアムチトを訪ねるといいだろう。また、綺麗なズイクの市場で面白い工芸品を見たり、聖母マリア像がジュニエの町を見下ろしているハリツサハケーブルカーで登ってみるものいいだろう。



スポーツとアウトドア



レバノンに数多く点在するスポーツクラブでは、ゴルフやテニス、スカッシュや水泳、また団体競技などに参加することが出来る。健康維持のためにもスポーツが盛んであり、一般のスポーツクラブやホテル備え付けのジムなどは外国からのビジターでも設備を利用することが可能である。

レバノンの地形はアウトドアスポーツに最適で、1月の初めから3月の終わり頃まで真っ白な雪に覆われた雪山まで約1時間弱で行くことができ、地中海性気候という恵まれた気候から

ほぼ毎日晴天の下でスキーを楽しむことが出来る。また「午前中はスキーをして、午後は海で海水浴」など普通では体験できないこともレバノンの地形なら可能である。レバノンのスキー場は、ザセダーズ、フアラヤ、ラクルーク、ファクラ、カナトパキシイウ、サラルールの6箇所である。

全てのマリンスポーツはほぼ一年中楽しむことが出来る。ジッエ、ティール、エンフェの砂浜や数ある海岸線沿いのリゾート地でのんびりするのにも良いだろう。スキューバダイビングも人気が高く、ベイルートのも「ハリゲム沖には第二次世界大戦のときに沈んだ潜水艦の探検やティール海岸に沈む古代フェニキア人の遺跡探索など楽しむことが出来る。

もっと冒険したい人にはレバノン杉付近でのパラグライディングやアウツワリ川でのカヤックやカヌーでの川下りもある。サンサイ山の急な坂道をジープで登ったり、深い洞窟の探索やトレッキング、ロッククライミングなどはレバノンの自然美を直接肌で感じる事ができる貴重な体験となるだろう。自分のお気に入りのアクティビティを楽しんでほしい。

レバノ料理



レバノンは世界でも最も多様な風味のある料理であることで高く評価されている。レバノン料理の始めに出させるメズゼ（前菜）は、数え切れないほどの小皿がテーブルいっぱいにならべられる。

美しく盛り付けされ彩りが綺麗な前菜は味覚だけでなく、視覚までも楽しむことが出来る。中でも絶品のメズゼはホンモス（ビヨコ豆を漉してゴマペーストを加えたもの）、ムタバル（前菜にゴマのペーストを加えたもの）、タブル（イタリアンパセリにトマト、玉葱の微塵切りに砕いた姜を加えたサラダ）、ワラク・アリシュ（葡萄の葉の詰め物）、ラフネ（氷切りしたヨーグルトをニンニクとオリーブオイルで味付けしたもの）、フアトウシユ（干しパン入りグリーンサラダ）、サンブースセク（辛いチーズ入りパイ）、ケツベ（焼いた小皿に挽肉と調味料を混ぜ合わせたもの）など他にもたくさんの種類がある。

前菜の次は海鮮料理か肉料理で、羊のケバブ、チキンの串焼きやカフタ（イタリアンパセリ入り挽肉）などである。伝統的な食事にはアニスで風味付けられた蒸留葡萄酒のアラクが伴う

のであるが、地元産の素晴らしいワインを選んでよい。

デザートにはエキソチックなナツメヤシの実や果実たっぷりのオレンジ、マンゴーやパイナップル、柿などもあるし、ピスタチオや白いチーズの入ったレバノン産のお菓子、オリエンタルな香りのするアイスクリームなどもある。

レバノン料理の終わりにはアルギーレ、すなわち果物、蜂蜜、糖蜜などで芳香を付けた水パイプ煙草が欠かせない。レバノン独特のお湯にオレンジの花の浸出液を入れたホワイトコーヒーや、濃いトルココーヒーも口の中をさつぱりと洗い流してくれる。

急ぎの時はレバノンの至る所で見られるサンドイッチ屋に立ち寄ることをお勧めする。典型的なレバノンのファーストフードとして、マンクーシユ（タイムにオリーブオイル入りのピザ）や、ラフネ・ピ・アジネ（軽く調味料を加えた挽肉とトマトのピザ）やフアラフエル（ソラマメのビーレ）、シヤワルマ（漬けた肉を焼いて薄切りと新鮮な野菜や漬物にゴマソースをかけたもの）などがある。

後立っ情報

ホテルとレストラン

レバノンには設備がよく、快適に楽しく過ごせる贅沢なホテルがたくさん存在する。

また多くのレストランではイタリア、日本、中国、メキシコといった国際料理から美味しいレバノン料理のあるレストランと幅が広く、数え切れないほどである。

観光省では、ホテルガイド、レストランガイド、ナイトクラブや喫煙店などの情報誌を発行しており、どれも観光局で手に入る事ができる。観光省にはレバノンの各地のインフォメーションや道標のパンフレットもある。



買い物物

ほとんどの国際的なブランド品はレバノンでも手に入るが、レバノン訪問客にとつて興味があるのは地元の特産品、特に工芸品である。刺繍工芸品、刃物類やカフタン、色々な種類の陶磁器などは特に人気が高い。商業的に才能を持つレバノンの宝石店では、好感的な価格で購入できる独特でユニークな店もある。

気候

一年のうち平均して300日が晴れというレバノンは温暖な地中海性気候である。6月から9月までは雨がほとんど全く降らず、7月と8月は蒸し暑い日が多く、平均気温は三十度ぐらいである。冬は一般的に涼しく、海岸沿いは雨、山では雪が降る。それでも冬は快適な日が多く、ウィンタースポーツに最適な国である。



役立つ情報

ビザ

レバノンに入国するには、海外にあるレバノン大使館が領事館でビザを取得し、かつ有効なパスポートを所持していなければならない。但しアメリカ、EU、アラブ湾岸諸国、日本を含む三十三カ国の国民はベイルート空港にてビザを取得することが出来るので有効なパスポートがあれば十分である。

通貨

通貨はレバノンポンドで、両替率はUSDドルでL.L.500である。両替免許の資格を持つ店が非常に多いため、レバノンでの両替は全く問題ない。中東でも、非常に発展した組織を持つ銀行や、国際クレジットカードを受け付けるATMがある。

税関

個人所有物は免税。アルコール類はひとり2本、たばこは、500グラム(400本)。葉巻タバコなら90本までが免税になる。

時差

日本時間マイナス7時間

(サマータイム適用時マイナス6時間)

GMTプラス2時間

(サマータイム適用時GMT+3時間)

営業時間

公認の休みは日曜日であるが、日曜の午前中なら開いている店やスーパーマーケットもある。一週間の営業時間は一般に次のようになっている。

・官公庁：月曜日～木曜日 午前8時～午後2時

金曜日 午前8時～午前11時

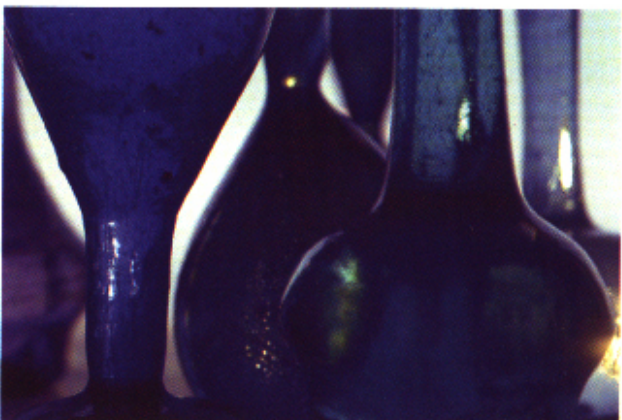
土曜日 午前8時～午後1時

・一般業：月曜日～金曜日 午前8時～午後6時

・銀行：月曜日～金曜日 午前8時半～午後4時

土曜日 午後1時まで

・商店街：月曜日～土曜日 午前8時半～午後8時



役立つ情報

祝祭日

日程が決められている祝祭日

元旦	一月一日
聖マルーンの日	一月九日
メーデー	五月一日
慰霊祭	五月六日
レジスタンスと自由の日	五月二十五日
昇天祭	八月十五日
全聖人祭	十一月一日
独立記念日	十二月十二日
クリスマス	十二月二十五日

日程に移動のある宗教上の祝祭日

元旦

カトリックの聖金曜日

オースドックスの聖金曜日

カトリックの復活祭

オースドックスの復活祭

回教徒の新年

アル・フイトル(ラマダン新月後の3日間)

アル・アド(ハメツカとメディナへのハッジ巡礼後の3日間)

アシユーラ祭

預言者モハメッドの誕生日

*ラマダンは回教徒が断食や寄付をしてお祝いする期間で、アル・フイトル(新月)は、毎年一月間くらい続き、ラマダンの間は日中に食事をとらず、夜にのみ食事をとる。回教徒の預言者モハメッドの誕生日は、回教徒のイブライムと称は行われる行事で知られる。

観光省情報局

電話 (01) 3433073
住所 ハムラ、セントラルバンク通り 505
電話 961+(1)340940/154
テレックス 20898LE
FAX 961+(1)430945
ホームページ www.destinationchamon.com
Eメール mat@lebanon-tourism.gov.lb

ツーリストボリス

観光客に何かの問題が生じた場合、観光省内のツーリストボリスへ連絡の事。連絡先は次の通り。

ハムラ、セントラルバンク通り

電話(01)350901/(01)3433286





ベイルート

本文： チャールズ・ナジャール
 翻訳： 安藤アドクンスまり子、鶴田波仁
 写真： アルメナック・イェタネキアン
 表紙： 高橋理志
 デザイン： 高橋理志、鶴田波仁
 印刷： エクスプレス・インターナショナル印刷所
 著作権： 2005年
 2005年発行
 HP: www.destinationlebanon.com
 E-mail: mot@lebanon-tourism.gov.lb

レバノン 観光ガイド

観光
省

